【 49 】

氏名	棚 橋 豊 子
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第1113号
学位授与の日付	昭和55年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**膀胱腫瘍の早期診断に関する研究** **第1報；尿細胞診と尿中ＦＤＰ併用の検討** **第2報；尿細胞診、尿中ＦＤＰ、組織フィブリン沈着、組織プラスミノーゲンアクチベーター活性の検討**
論文審査委員	教授 小川 勝士　教授 野原 望　教授 関場 香

学位論文内容の要旨

膀胱腫瘍の診断における尿細胞診は一般化しつつあるが，これの正診率は必ずしも高いとはいえない。著者は正診率を向上せしめる１つの手段として尿中ＦＤＰ併用の有用性を検討した。尿中ＦＤＰ出現の原因追求を目的として組織フィブリン沈着，組織プラスミノーゲンアクチベーター活性を検討した。その結果尿細胞診は high grade のもの程，また non-papillary のものにより高い正診率を認めた。また尿中ＦＤＰ陽性で尿細胞診陽性群の８６.７％に腫瘍の存在を認め，細胞診・ＦＤＰの併用は各々の単独診断法による正診率をさらに高率になしうることが明らかとなった。術後 followup 患者の局所再発例で膀胱鏡検査で腫瘍の再発が確認されるより以前に細胞診陽性（classⅢ以上）・ＦＤＰ陽性化を認めこれが腫瘍の再発まで持続することにより，両者の併用は膀胱腫瘍の早期診断に有用であることが明らかとなった。尿中ＦＤＰは腫瘍周囲のフィブリン沈着と腫瘍組織のプラスミノーゲンアクチベーター活性の関与により出現すると推察された。

論文審査の結果の要旨

本研究は膀胱腫瘍患者の尿につき，細胞診と尿中ＦＤＰ検出法を併用することにより，腫瘍の組織学的悪性度が高く，また非乳頭状の腫瘍程高い正診率が得られ，更に術後再発例では膀胱鏡検査に先立って陽性化を示すことを明らかにしたものであるが，膀胱癌の早期診断と再発予知の為に重要な診断法を提示したものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究は医学博士の学位を得る資格があると認める。